

## 平成28年度第2回山形人材育成委員会総会 議事録

日 時 平成29年3月22日(水) 15:30~17:00

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者

委員長	安田 弘法	(山形大学)
副委員長	大川 健嗣	(東北文教大学・東北文教大学短期大学部)
	佐藤 圭次	(代理)(山形県)
委員	菅原 京子	(山形県立保健医療大学)
	後藤 智	(代理)(東北芸術工科大学)
	青木 孝弘	(代理)(東北公益文科大学)
	神田 和也	(鶴岡工業高等専門学校)
	松田 芳徳	(山形県立産業技術短期大学校)
	勝見 英一朗	(山形工科短期大学校)
	金内 良一	(山形県市長会)
	仁科 義英	(山形県町村会)
	松田 一彦	(山形県商工会連合会)
	作田 和典	(代理)(山形県中小企業団体中央会)
	丹 哲人	(一般社団法人 山形県経営者協会)
企画運営部会長	横井 博	(山形大学)
連携取組評価部会長	長岡 喬	

陪席者

	田原 舞	(東北芸術工科大学)
	小笠原 広美	(東北文教大学・東北文教大学短期大学部)
	滝澤 匡	(山形大学)
	成田 博昭	(山形大学)
	武田 仁志	(山形大学)
	尾形 睦	(山形大学)
	庄司 有里	(山形大学)

事務局

	齋藤 幸太郎	(大学コンソーシアムやまがた)
	西田 靖子	(大学コンソーシアムやまがた)

欠席者

委員	滝口 慶太	(東北芸術工科大学)
	神田 直弥	(東北公益文科大学)
	吉田 敏	(山形県立米沢女子短期大学)
	柏倉 弘和	(羽陽学園短期大学)
	遠藤 隆弘	(山形県)
	富田 博	(山形県商工会議所連合会)
	齋藤 豊	(山形県中小企業団体中央会)

議事に先立ち、本総会の議事録署名人を大川委員と仁科委員に依頼したい旨提案があり、了承された。

## 【報告事項】

### 1 平成28年度事業報告について

各部長から資料1及び平成24年度～28年度最終報告書・平成28年度報告書に基づき報告があった。

(主な質疑応答)

- ・共同教育部会が所管の「山形講座強化書」について、最終報告書へ記載がないようだが、各大学等や教員への配付のみとなっているのか。せっかくなので連携機関としても一読したいと思う。(金内委員)
- 最終報告書51ページをご覧ください。章のタイトルが「社会人力育成教育プログラムの確立」となっているが、その文章には「山形講座において、社会人力育成教育プログラムとして4教育分野がどのように確立したのかをまとめ、また本事業終了後も同様の教育プログラムを展開できるよう、『山形講座強化書』を作成した。」と記載しており、これ以降の73ページまでが強化書として、山形講座全体と各教育分野それぞれ作成し掲載している。(横井企画運営部長)
- ・この山形講座強化書は、基本的に、本事業に参加した大学等及び教員、また今後山形講座を参考とする全国の高等教育機関に向けて、山形講座ではこういった成果や結果だった、こういったところに力を入れると良い等といったことを、別冊にして広く配布する予定はあるのか。(金内委員)
- 本最終報告書を送付して見ていただくことにしている。(横井企画運営部長)
- ・長岡連携取組評価部会長をはじめとする連携取組評価部会の連携機関委員の方々には、学生の活動内容や教員からの報告等をチェックいただき、本事業の連携取組評価に非常に熱心に取り組んでいただき御礼を述べたい。山形を担える学生をどう育成していけばいいのか、かならずしも出身が山形ではない学生がいるなかで、県外出身の学生にも、こういう風にして「ふるさと」や地域を見るものなのかといった視点を強烈に植えつけることができたのではないかと思う。県外出身の学生すべてが山形に就職するということは不可能なので、そういう視線や想いを持たせたという点では、意義があったのではないだろうかと考えている。そういったところを委員の方々には、きっちり見て、折々に厳しいご指摘等をいただき、評価いただいたことを有り難く思う。ありがとうございました。(大川委員/共同教育部会長)
- 今の長岡連携取組評価部会長からの報告を受け、3つの提言、それぞれ貴重な提言である。私は山形大学の教育担当の理事を仰せつかっているので、山形大学でも是非落とし込んでいきたいと考えている。知の拠点事業(COC・COC+)を各大学等で実施し

ているところだが、地域の活性化において、本提言はとても重要な部分だと思うので、提言にもありましたメディアへの積極露出等を含め、各大学等でも実行していただければありがたいと思う。お忙しい中、貴重な提言をまとめていただき、ありがとうございました。(安田委員長)

## 2 大学間連携共同教育推進事業フォローアップ報告書の開示について

事務局から資料2に基づき報告があった。

## 3 大学間連携共同教育推進事業の「事後評価」について

事務局から資料3に基づき報告があった。

(主な質疑応答)

・事後評価の報告事項で質問すべきことか迷うのだが、本事業では共同教育や単位互換といった中で、IRシステム導入研究も一つの大きな柱として挙げていたと理解しているが、今回の最終報告書ではIRシステムに関しては最終報告書の21ページから24ページに記載があるとおり、評価の一手法で実施したといったふうになっている。IRシステムをこのようなものとして導入あるいは試作したといった記載がないが、共同教育や単位互換、共同教育FD、連携取組といった部分は非常に上手くいったと思うが、IRシステムは本事業が採択された頃は文部科学省でも推進しようとしていた時期で、その後一気に下火になったので、それに伴い尻すぼみになったのではと思うが、IRシステム導入研究は一応、ひとつの柱として挙げていたものであるのか、事後評価等で触れる必要はないのか、今後どのように整理・対応するのか考えを聞きたい。(金内委員)

→IRシステムを担当した一人なので、私から説明したい。IRシステムそのものは様々なパターンがあり、それを報告書へ記載することが有用かといえばそれは疑問である。各年度のフォーマットや分析結果はあるが、IRシステムそのものについては重要とはいえ、報告書へは記載しなかった。データをどれだけ収集し社会人力とどう関連付け、システム的な成果を見せていくかがポイントになると思う。当初予定していた、社会人力とその他のデータ(入試・大学満足度・授業評価・就労意向)を収集し関連付け分析するとどう見えてくるのか、これを目的としてIRシステムを構築してきたが、一部は個人情報の兼ね合いがあり断念せざるをえず、個人情報の問題がないデータで関連付け分析しており、それが成果と言え掲載している。IRシステムはそれぞれの大学等で、こう関連付ければこういった結果が見えてくるとわかれば、次のステップとして導入するかしないかを決めていただき、上手く利用していただければいいのではないかと考えている。(横井企画運営部会長)

→山形大学も昨年8月にアメリカからIRの専門家に来学していただき、莫大なデータを基に多面的な解析をはじめたところである。最近、個人情報保護がらみでなかなかデ

ータをすんなり入手して、また個人情報保護がらみのデータだけではなく母集団も多  
くないと信頼できる解析が出来ない場合があり、IRという言葉だけが先行し実質なる部  
分では、なかなか難しいと感覚的には感じているところだ。(安田委員長)

→ IRシステムに関しては文部科学省にしても他大学等にしても、5年前、10年前は過  
大評価していたのではないかと感じる。IRを導入して本当に意義があるのは山形大学  
のような規模の大学等だけなのではないかと感じており、他の大学等では各指導教員等  
が学生の情報をよく把握しておりIRシステムの導入には結びつかないのは、やむをえ  
ないのではないかと思う。なお報告書には形だけでもIRシステム導入研究の一言を入  
れた方が良かったのではないだろうか。他にFDと共同教育を一緒に掲載しているので、  
申請書に記載の主事業としてそれぞれ掲載する方が良かったように感じる。(金内委員)

### 【協議事項】

#### 1 平成28年度補正予算並びに収支決算(案)について

事務局から資料4に基づき説明があり、了承された。また、残額が生じた場合は山形大  
学に返還する旨、事務局から説明があった。

#### 2 平成29年度以降の継続事業等について

事務局から資料5に基づき説明があり意見交換の後、安田委員長から、今後はいただ  
いた意見等を加味し、大学コンソーシアムやまがたの総会で審議し取り組むことになるので、  
変更や修正等が生じた場合は、山形人材育成委員会委員長へ一任いただきたい旨説明があ  
り、了承された。

#### (主な意見交換)

・大学コンソーシアムやまがた継続事業「山形講座フォローアップ事業」の「①山形講座  
開設」というのは、各高等教育機関が開講するものではなく、大学コンソーシアムやまが  
たで開講するため、履修証は発行されるが単位は取得できない講座になるのか。また、こ  
の講座は各高等教育機関が通常の授業を開講している時間帯に実施するのか。(金内委員)  
→そのとおりである、単位は取得できない。担当教員と詳細を相談していないが、学生が  
受講しやすいように、土日といった通常の授業時間帯にぶつからないよう開講日を設定  
したいと考えている。(事務局)

→「山形講座フォローアップ事業」については、詳細を今後詰めていくことになる。そう  
いった経緯も含めてご了解いただければありがたいと思う。(安田委員長)

## 【その他】

本委員会の終了に際して、各連携校・連携機関の委員等よりご意見・感想等を一言ずついただいた。

- ・皆様のご理解・ご協力がなければ、こういったプロジェクトは円滑に進んでいかないと身を持って感じました。様々な方が集まれば見えないところが見えてきて、小さかったものが大きくなり良くなっていく。山形人材育成委員会をどう作るかからスタートし、会を重ねるごとに金内委員からの的確なご指摘をいただき、枠組みが強固となったと思う。連携機関・連携校の皆様より貴重な意見や情熱を傾けていただき、より良くなってきてプロジェクトは上手くいくのだと実感させていただきました。改めて御礼を申し上げたいと思う。ありがとうございました。(横井企画運営部会長)
  - ・山形県立保健医療大学は単位互換といった部分だけでの参加でした。保健医療系の大学ということで、特に学生の県内定着に関しましては、山形県からも期待をいただいているところで大学として取り組んできており、文部科学省の事業「課題解決型高度医療人材養成プログラム」が別途採択されており、看護学科の授業科目で「地元ナース」というものを開設して実施しているが、山形講座の内容と違う事業であるが地元ナースの内容に共通するものがあり、参加して改めて是非参考にして今後取り組んでいきたいと思った。今後よろしく願いたい。(菅原委員)
  - ・これまで様々な情報を頂戴し、大変勉強になった。東北芸術工科大学は、デザイン・芸術分野の専門性の強い大学であるが、実は地域や産業界等とは密接に関わっている。大学としても、専門性だけではなく、プラスして社会人力、社会にでてからの様々な力を強化して社会に送り出すのが大きな命題であるが色々と模索したところ、本事業で論点を整理していただき、我々が持っている課題というものをわかりやすく理解を深めたところである。報告書には沢山の事例等があったので、大学へフィードバックし、すべては出来ないが要素を継続して取り組んでいきたいと考えている。参考になることが沢山あったので感謝している。ありがとうございました。(後藤委員代理)
  - ・東北公益文科大学は遠隔地・酒田市にあるが、山形大学の授業を酒田で開講していただき本学生が受講したり、また様々な背景を持つ農学・工学・芸術学等の学生との交流のなかで、非常にいい学びに本事業は繋がったと思う。この事業を通じて、遠隔地から受講する学生への交通費支援制度を考えていただき、学生が活発に単位互換をできる原動力になったと感謝申し上げます。昨日、東京都で一旦は就職したが本講座を受講したことがきっかけとなり、山形にJターンした学生と会い色々話をした。一旦は県外に就職しても、その学生は宮城県出身だったが、山形講座を通じてまた山形に戻ってきてくれる学生が増えてきており、今後は社会人へ対しての学び直しといったことも考えてまいりたいと思っている。ありがとうございました。(青木委員代理)
- 地域創生・地域活性化の上で、学生が何人山形に就職したかといった単主眼的な見方をされることがある。それを否定するわけではないが、やはり教育というものは長い目で見る必要もあり、学生が山形へ帰ってきてくれるのは喜ばしいことだと思う。(安田委員)

長)

- ・今思い起こすと5年前に横井先生から、C O - O P教育の部分を担当していただけないかと話をいただき一緒に参画することになった。本事業全体の部分にはなかなか関わることが出来なかったが、本校のC O - O P教育も地域密着型なので非常に今地元企業から支援をいただきながら推進している。お陰様で平成24年から始めたC O - O P教育も地元企業において連続で就業体験を行い、就職に繋がった学生が数名でている。確実に成果がでているので、C O C +でもまた山形大学を中心として進めていただきたい。今後とも宜しくお願いしたい。(神田委員)
- ・山形県立産業技術短期大学校は文部科学省所管の学校でないので性質は違うところがあるが、授業の面では単位互換は難しいが、教育という面では共通するものがあり、FD等へ参加させていただき様々な高等教育機関の教員の方々に混じり勉強させていただいて、非常に視野が広がり大変良かったと思う。本校はもともと地元密着型で、約9割の学生は地元就職するのだが、本事業と同じような方向を向いているので一緒になって山形に人材を送り出したいと考えているので、これからもよろしくをお願いしたい。(松田(芳)委員)
- ・山形工科短期大学校の性質上、本事業と直接的な関わりを持つことができなかったが、教員の様々な勉強のために大変お世話になった。本校の学生は、全員が企業の社員として給料をいただきながら2年間勉強している。本校の目的は、企業へ戻った時に仕事で使える人間をどうやって育てるのか、常に社会人であるということを意識させながら指導を行っている。また長井市内にある学校なので、長井市の活性化も担っており、卒業制作でもそういったことをテーマに学生が取り組むこともある。今回のこの報告書を本校でも参考にさせていただきたい。(勝見委員)
- ・前任者の後を受け平成26年半ばから委員として関わってきたが、最初はFDやIR、ルーブリックといった普段なじみのない言葉を聞き、本委員会がどんな組織であるかわからなかった。また社会人力と社会力はどうか、その辺からスタートし、ようやく少しはわかるようになってきたところである。その間、学生のフィールドワークを見学させていただき、本事業の他にもC O C ・ C O C +へも関わるようになり、ステークホルダーとして、山形の高等教育機関で教育を受けた人材はできるだけ多く地元に残って活性化のために活躍して欲しいと願いを持っている。本事業を契機として、学生と経済界のパイプ役を担えればと思っている。(丹委員)
- ・本事業が始まった時に委員の委嘱の話を受け、山形県中小企業団体中央会の齋藤豊副会長と手分けをして参画しようと考え、総会委員は副会長、部会委員を私がということで引き受けたのだが、結果として、部会委員を引き受けて大変良かったなと思っている。大変充実した事業だった。授業参観・フォーラム等で学生の話の聞いたり、実際に授業を見たりして、学生は熱心に受講しており授業を行う教員の熱意も感じ、他の会議も多いのだが、本事業の会議へ熱心に参加し話を聞きたいと思うようになった。少しでも力になればと思っており、今後とも協力したいと考えている。(作田委員代理)
- ・教員の方々には、長い間お疲れ様でした。これから山形講座を通じまして、これを契機に、学生たちが山形や地域の企業に就職をしていただきと考えている。(松田(一)委員)

- ・本事業へ参画させていただき、大変面白かった。長井市のレインボープランが受入れの授業、鮭川村のすごい奥の木の根坂集落が受入れの廃校利用の授業、起業論を授業参観したが、熱心な授業であると感じた。連携取組評価を行わなければいけないということで授業参観を行ったが、この山形講座全体を見渡して、様々な評価にすごく力を入れていると感じ、評価結果をまた授業へフィードバックしており、評価がしっかりと機能しているという印象を持った。(仁科委員)
- ・本事業で色々と勉強させていただいて、私たちが学生時代は座学が主だったが、今はフィールドワークでの授業や学生がめいめいに活動する授業といったもので力をつけていると知りました。この講座で学んだ多くの学生が、各市町村等の職員になり活躍してくれるものと思う。また新たな何かの形で事業が継続されるのは、大変喜ばしいことだと考えている。(金内委員)
- ・今年度で本事業が終了するということが、来年度以降も各大学等で関連して取り組んでいくということで、大変心強く感じている。また、COC・COC+等のような山形県内への学生の定着に向けて同様な主旨での取組があるので、そういった取組でもこれまでの成果や今後において連携して推進していただくことで、卒業生の山形県内への定着にも繋がっていくと考えている。これで終わりということなく、これからの発展していくものとして期待している。(佐藤委員代理)
- ・本事業が採択されゼロから出発してきたが、多数の教員・関係者の皆様にご尽力いただき、課題もありますが本事業は成功したのではないかと考えている。それにあたっては、皆様の高い志と情熱の為せる業のおかげであったと思っている。この4年6ヶ月にわたり、各連携校・連携機関の皆様においては、多大なるご協力やご便宜を賜り、心から御礼申し上げます。本事業を立ち上げたことにより、それまでは単位互換制度はほとんど機能していなかったが、単位互換が進み、それだけではなく各連携校・連携機関との連携が今後さらに展開できる土壌ができあがったのではないかと考えている。今後も各連携校・連携機関の皆様におかれましては、山形県内の高等教育の発展と地域を担う人材育成のため、変わらぬご支援・ご協力いただければありがたいと思っている。長い間、色々とありがとうございました。(安田委員長)

以上

【配 付 資 料】

資料 No なし 山形人材育成委員会名簿  
第2回山形人材育成委員会総会 出席者名簿  
平成28年度第1回山形人材育成委員会総会 議事録

資料1 平成28年度山形人材育成委員会 各部会議事録

資料2 大学間連携共同教育推進事業 フォローアップ報告書

資料2-1 大学間連携共同教育推進事業フォローアップ報告書の開示について

資料2-2 大学間連携共同教育推進事業 平成24年度選定取組 実施状況報告書

資料3 「大学間連携共同教育推進事業」事後評価要項


資料4 平成28年度山形人材育成委員会 補正予算並びに収支決算書(案)

資料5 平成29年度以降の継続事業等について


机上配付 美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開  
平成24年度～28年度最終報告書・平成28年度報告書

議事録署名人

山形大学理事・副学長

安田弘法 

東北文教大学学部長・教授

大川健嗣 

山形県町村会事務局長

仁科義英 